

PowerShell コマンド操作ガイド

Arcserve® High Availability

バージョン 18.0

arcserve®

リーガル ノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは (i) 本書に関連する Arcserve ソフトウェアの使用について、Arcserve とユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または (ii) ユーザと Arcserve との間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただし Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、Arcserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、Arcserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。Arcserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b) (3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2019 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

Arcserve 製品 リファレンス

このマニュアルが参照している Arcserve 製品 は以下 のとおりです。

- Arcserve® High Availability(HA)
- Arcserve® Replication
- Arcserve® Assured Recovery®
- Arcserve® Content Distribution

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

<https://www.arcserve.com/support>

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供

Arcserve 製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、[こちら](#)までお問い合わせください。

コンテンツ

第1章: 使用方法	9
このマニュアルについて	10
関連 マニュアル	11
Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明	12
PowerShell の概念	13
PowerShell Cmdlet	14
オブジェクト パイプライン	15
Arcserve RHA PowerShell のインストール	16
Arcserve RHA PowerShell の実行	17
ヘルプの使用	19
コマンド出力のフォーマット	20
第2章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの使用	21
接続コマンドおよび登録コマンド	22
Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続	23
スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続	25
Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除	26
Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示	27
Set-License - Arcserve RHA の登録	28
xo-import-credential	29
xo-convertto-securefile	30
xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換	31
Add-Credential - 認証情報をホストに追加します	32
Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します	33
Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します	34
制御コマンド	35
Diff-Scenario - 相違点レポートの生成	36
Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート	37
Expose-Snapshot - スナップショットの公開	38
Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート	39
Mount-Snapshot - スナップショットのマウント	40
Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備	41
Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復	42
Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオのIsAlive チェックの再開	44

Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開	45
Run-Scenario - シナリオの開始	46
Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行	47
Set-Bookmark - リワインド ブックマークの設定	48
Stop-Scenario - シナリオの停止	49
Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオのIsAlive チェックの一時停止	50
Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止	51
Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行	52
Sync-Scenario - 同期の開始	53
Test-Integrity - アシユアード リカバリの整合性テストの実行	54
Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除	56
編集コマンド	57
Add-Appliance - フルシステム シナリオ用のアプライアンスの指定	58
Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加	60
Add-Group - シナリオ グループの作成	61
Add-Master - シナリオへのマスタ ホストの追加	62
Add-Replica - シナリオへのレプリカ ホストの追加	63
Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカ ホストの追加	64
Add-Scenario - 新規シナリオの作成	65
Create-D2DScenario - D2D シナリオの作成	67
Create-HBBUScenario - Arcserve Central Applications 統合シナリオの作成	68
Get-D2DBackupDestination - D2D バックアップ先の取得	69
Get-HBBUVM - Arcserve Central Applications サーバからの VM の取得	70
Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除	71
Remove-Group - シナリオ グループの削除	72
Remove-Replica - シナリオからのレプリカ ホストの削除	73
Remove-Scenario - シナリオの削除	74
Rename-Group - シナリオ グループの名前の変更	75
Rename-Scenario - シナリオ名の変更	76
実行中にシナリオを変更するコマンド	77
Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties	78
Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties	79
Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties	80
Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties	81
Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties	82

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties	83
Get-RuntimeChangeableScenarioProperties	84
Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties	85
Set-RuntimeChangeableScenarioProperty	86
Test-RuntimeChangeableScenarioProperty	87
モニタリングコマンド	88
Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示	89
Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示	90
Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示	91
Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示	92
Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワークアダプタの取得	93
Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示	94
Get-Snapshot - レプリカホストのVSSスナップショットを表示	95
Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示	96
Get-Stats - シナリオの統計情報を表示	97
ユーザ管理コマンド	98
Clean-VMResource – 仮想プラットフォーム上のVMリソースの消去	99
Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワークアダプタのマッピング	100
Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザグループ名の表示	102
Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザグループの変更	103
Get-Users - スーパー ユーザグループのすべてのユーザの一覧表示	104
Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示	105
Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て	106
Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル	107
Index	108

第1章: 使用方法

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

このマニュアルについて	10
関連マニュアル	11
Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明	12
PowerShell の概念	13
Arcserve RHA PowerShell のインストール	16
Arcserve RHA PowerShell の実行	17
ヘルプの使用	19
コマンド出力のフォーマット	20

このマニュアルについて

このマニュアルには Arcserve RHA PowerShell コマンドの実行および活用に必要なあらゆる情報が含まれています。このマニュアルでは、Windows PowerShell の概要、Arcserve RHA PowerShell の各コマンドについて説明し、これらのコマンドを使用して、DR および HA プロセスを制御、編集、モニタする手順と例を紹介します。

関連マニュアル

このマニュアルは、「Arcserve RHA インストールガイド」および「Arcserve RHA 管理者ガイド」と併せてお読みください。Arcserve RHA 18.0 マニュアルのリンクについては、以下を参照してください。

- [マニュアル選択メニュー](#)
- [リリースノート](#)

Arcserve RHA PowerShell コマンドの説明

Arcserve RHA PowerShell は、Arcserve RHA マネージャのグラフィック ユーザ インターフェイス(GUI) を使用したレプリケーション プロセスを管理するための代替手段または補足手段として、ユーザに提供されています。パワーシェルは、以前のバージョンで提供されていた WS CLI の機能を拡張し、より使いやすくしたものです。また、DR と HA の両方の処理がサポートされています。

Windows PowerShell™ は、システム管理者専用設計された新しい Windows コマンド ライン シェルおよびスクリプト環境です。このシェルには単独または組み合わせて使用できる対話型プロンプトおよびスクリプト環境が含まれています。テキストを受け取って返す通常のシェルとは異なり、Windows PowerShell は .NET 共通言語ランタイム(CLR) および .NET フレームワーク上に構築されていて、.NET オブジェクトを受け取って返します。

Windows PowerShell™ には、一貫性のあるインターフェイスを使用した、包括的な組み込みコマンド セットが用意されています。Arcserve RHA PowerShell は標準の Windows PowerShell™ をベースに、スナップインと呼ばれる多数のシナリオ関連コマンドが追加されています。このガイドでは、レプリケーション シナリオの設定、レプリケーションとスイッチオーバーの処理の制御およびモニタを可能にするこれらのスナップインについて説明しています。Arcserve RHA PowerShell コマンドで管理するすべてのシナリオの表示や操作は、Arcserve RHA マネージャで管理するシナリオと同じです。デフォルトの自動保存場所も同じ(`INSTALL_DIR/ws_scenarios`) です。

PowerShell の概念

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [PowerShell Cmdlet](#)
- [オブジェクト パイプライン](#)

PowerShell Cmdlet

Windows PowerShell では、cmdlet(「command-let」) の概念を導入しています。cmdlet は、オブジェクトの操作を目的とする、シェルに構築された単純で単機能のコマンドライン ツールです。cmdlet は名前形式で識別することができます。たとえば、Get-Help、Get-State、Run-Scenario など、動詞と名詞がダッシュ(-) で区切られています。動詞は Windows PowerShell の特定のアクションを示し、名詞は特定のオブジェクトのタイプを示します。

Windows PowerShell では、ほとんどの cmdlet の機能は非常に単純で、他の cmdlet と組み合わせて使用されるように設計されています。たとえば、それぞれ、「get」cmdlet はデータの取得、「set」cmdlet はデータの構築または変更、「format」cmdlet はデータのフォーマット、「out」cmdlet は特定の方向への出力のみに使用されます。

PowerShell cmdlet には共通のパラメータがありますが、本書では扱いません。この共通パラメータの詳細を表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
get-help about_commonparameters
```

PowerShell cmdlet は、必須およびオプションのパラメータを持つことができます。必須パラメータがない場合は、入力を促すプロンプトが表示されます。オプションのパラメータが不足している場合は、PowerShell はデフォルトの値を使用します。

オブジェクト パイプライン

Windows PowerShell では、テキストではなく、オブジェクトに基づいた新しい対話型モデルを提供しています。オブジェクトを使用する大きな利点の1つは、コマンドのパイプラインが容易になることです。つまり、あるコマンドの出力を別のコマンドに入力として渡すことができることです。

オブジェクトを受け取るコマンドは、変換や操作をせずに、直接プロパティやメソッドを処理することができます。ユーザは、出力にあるデータの位置を計算するのではなく、オブジェクトのプロパティおよびメソッドを名前で参照することができます。)

以下の例では、Get-Scenario コマンドの結果は Get-Hosts コマンドに渡されます。パイプライン演算子 (|) が左側のコマンドの結果を右側のコマンドに送り、出力は Format-Table コマンドに送られます。

```
PS> Get-Scenario "File Server*" | Get-Hosts | FT -AUTO
```

Scenario	Name	Role	Parent	State	IP	Port
File Server 1	192.168.1.152	Master	--	Running	192.168.1.152	25000
File Server 1	192.168.1.153	Replica	192.168.1.152	Running	192.168.1.153	25000
File Server	192.168.1.152	Master	--	Stopped	192.168.1.152	25000
File Server	192.168.1.153	Replica	192.168.1.152	Stopped	192.168.1.153	25000

Arcserve RHA PowerShell のインストール

Arcserve RHA PowerShell を使用するには、Windows PowerShell と Arcserve RHA スナップインをインストールする必要があります。

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインの要件およびインストールの詳細については、「*Arcserve RHA インストールガイド*」を参照してください。

重要： Arcserve RHA PowerShell と接続先の Arcserve RHA コントロール サービスは同じバージョンでなければなりません。

Arcserve RHA PowerShell の実行

Windows PowerShell および Arcserve RHA スナップインをインストールした後、2 つの場所から Arcserve RHA PowerShell を実行できます。

- Arcserve RHA PowerShell ショートカット - このオプションを使用すると、すぐに Arcserve RHA PowerShell スナップインの操作を開始できます。
- Windows PowerShell ショートカット - このオプションを使用する場合、Arcserve RHA PowerShell スナップインを手動で Windows PowerShell に追加する必要があります(以下を参照してください)。

重要: マスタ、レプリカ、およびコントロールサービスのホストのそれぞれに異なるパスワードを設定している場合、PowerShell のコマンドの実行中にシステムエラーが発生し、操作を実行または完了できない場合があります。この問題を回避するために、すべてのホストで同じ管理者パスワードを使用してください。

Arcserve RHA PowerShell を Arcserve RHA PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. **[スタート]-[プログラム]-[arcserve RHA]-[PowerShell]**を選択して、Arcserve RHAPowerShell を開きます。

Arcserve RHA PowerShell を開くと、以下のウィンドウが表示され、すべての Arcserve RHA PowerShell スナップインの一覧が表示されます。

ここで、Arcserve RHA 操作を管理するコントロールサービスに接続する必要があります。これを実行するには、[Connect-XO](#) コマンドを使用します。

Arcserve RHA PowerShell を Windows PowerShell ショートカットから実行するには、以下の手順に従います。

1. **[スタート]-[プログラム]-[Windows PowerShell 1.0]-[Windows PowerShell]**を選択して、Windows PowerShell を開きます。

Windows PowerShell ウィンドウが表示されます。

2. 以下のコマンドを入力して、作業ディレクトリを Arcserve RHA PowerShell スナップインの INSTALLDIR に変更します。

```
CD 'INSTALLDIR\Powershell Snapin'
```

ディレクトリが変わります。

3. 以下のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインをインストールします。

```
.\xo.ps1
```

Arcserve RHA PowerShell スナップインがインストールされ、これらのスナップインを使用して、Arcserve RHA 操作を管理するコントロール サービスへの接続を開始できます。

ヘルプの使用

PowerShell では、複数の方法でヘルプおよび追加の情報を得ることができます。

特定のコマンドのヘルプ

- ヘルプ パラメータ - 任意のコマンドに `-?` パラメータを指定すると、そのコマンドは実行されません。代わりに、Windows PowerShell はそのコマンドのヘルプを表示します。構文は以下のとおりです。

`<コマンド名> -?`

- コマンドの型と構文を表示するには、次のコマンドを入力します。

`get-command <command_name>`

- コマンドごとに詳細なヘルプファイルがあります。ヘルプファイルを参照するには、以下のコマンドを入力します。

`get-help <コマンド名> -detailed`

コマンド ヘルプ ファイルの詳細ビューにはコマンドの説明および構文、パラメータの説明、およびコマンドの使用例が含まれています。

- コマンドのパラメータのヘルプを表示するには、パラメータのプロンプトの後に「`!?`」を入力します。

`<パラメータ名>: !?`

使用できるコマンドの一覧

- 使用できる Windows PowerShell コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

`get-command`

- 使用できる Arcserve RHA PowerShell スナップイン コマンドの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

`get-command | where {$_.DLL -match "XO"} | format-table`

- XO コマンドに定義されているすべてのエイリアスの一覧を表示するには、以下のコマンドを入力します。

`alias xo*`

Arcserve RHA PowerShell のコマンドの検証

- Arcserve RHA PowerShell スナップインのインストールを確認するには、以下のコマンドを入力して、Arcserve RHA PowerShell スナップインを探します。

`get-pssnapin`

コマンド出力のフォーマット

Windows PowerShell には、以下のような、出力表示を変更できるようにするコマンドがあります。

- Format-List
- Format-Custom
- Format-Table
- Format-Wide

いずれかのコマンド出力のフォーマットを変更するには、パイプライン演算子 (|) を使用して、コマンドの出力を Format コマンドに送信します。

たとえば、次のコマンドでは Get-Scenario コマンドの出力を Format-Table コマンドに送信しています。その結果、データは表としてフォーマットされています。

```
PS>get-scenario |Format-table
```

ID	Group	Name	Type	Master	State	Sync	AR
1123633468	Scenarios	File Server 1	FileServer	192.168.1.152	Running	File	False
1123633497	Scenarios	Exchange Server	Exchange	192.168.1.152	Running	Block	True
1123633852	Scenarios	File Server 3	FileServer		Unknown	File	False
3848963840	Scenarios	File Server	FileServer	192.168.1.152	Stopped	File	False
3848982942	Scenarios	File System 1	FileServer	QA99-W2K3-EX8	Running	File	False

詳細については、以下のコマンドを実行して、Format コマンドのヘルプを参照してください。

```
get-help format-list
```

```
get-help format-table
```

```
get-help format-wide
```

```
get-help format-custom
```

第2章: Arcserve RHA PowerShell コマンドの使用

この章では、Arcserve RHA PowerShell コマンドを使用して、レプリケーションおよび HA プロセスを制御、編集、モニタする方法の詳細を説明します。コマンドはアルファベット順に表示され、接続、登録、制御および編集の4つのグループに分かれています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

接続コマンドおよび登録コマンド	22
制御コマンド	35
編集コマンド	57
モニタリングコマンド	88
ユーザ管理コマンド	98

接続コマンドおよび登録コマンド

このセクションでは、コントロール サービスに接続する方法、コントロール サービスから切断する方法、および Arcserve RHA 登録のライセンスキーを入力する方法を説明しています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続](#)
- [スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続](#)
- [Disconnect - XO - 実行中のコントロール サービスからの接続解除](#)
- [Get-license - Arcserve RHA ライセンスの表示](#)
- [Set-license - Arcserve RHA の登録](#)
- [xo-import-credential](#)
- [xo-convertto-securefile](#)
- [xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換](#)
- [Add-Credential - 認証情報をホストに追加します](#)
- [Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します](#)
- [Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します](#)

Connect-XO - PowerShell のコントロール サービスへの接続

PowerShell を使用して Arcserve RHA シナリオを操作するには、まず Arcserve RHA 操作の制御点の役割を果たすコントロール サービスに接続する必要があります。**Connect-XO** コマンドを使用して、PowerShell を特定のコントロール サービスに接続することができます。

注： Arcserve RHA PowerShell の操作が終了したら、必ず、[Disconnect-XO コマンド](#)を使用して、コントロール サービスから接続解除してください。PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロール サービスから接続解除されます。

構文

```
Connect-XO [-Host] <文字列> [-Credentials] <PSCredentials> [[-Protocol] [<文字列>]]  
[[Port] [<文字列>]]
```

パラメータ

Host

コントロール サービスが実行されているマシンの IP アドレスまたはホスト名。

Credentials\PSCredentials

コントロール サービスのドメイン\ユーザ名。これらの認証情報は、コントロール サービスの管理者権限を持つユーザに属する必要があります。認証情報を入力したら、**[Windows PowerShell 資格情報の要求]**ダイアログボックスが表示され、パスワードを入力するように求められます。

注： **[PSCredentials]**ダイアログボックスに認証情報を手動で入力しなくても済むようにするには、「スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続」を参照してください。

プロトコル

コントロール サービスに接続するために使用されるプロトコル。**http** または **https** のいずれかを入力します。

Port (オプション)

コントロール サービスに接続するために使用される TCP/IP ポート。**http** の場合、デフォルト値は **8088**、**https** の場合、デフォルト値は **443** です。

例：コントロール サービスへの接続

```
connect-xo 192.168.1.151 qa88-w3k3\administrator https
```

結果

「Windows PowerShell 資格情報の要求」ダイアログ ボックスが表示され、パスワードを入力するように求められます。入力操作の後、以下のメッセージが表示されます。

接続しています...

192.168.1.151 に接続しました。

スクリプトを使用した PowerShell のコントロール サービスへの接続

パスワードを暗号化し、それをオブジェクトとして実行することによって、**[PSCredentials]**ダイアログボックスに認証情報を手動で入力する必要がなくなります。

パスワードを暗号化して、オブジェクトとして実行するには、以下の手順に従います。

以下コマンドを入力し、必要な箇所にパスワードを使用して、一度実行します。

```
read-host -assecurestring | convertfrom-securestring | out-file C:\securestring.txt  
<password>
```

```
$pass = cat C:\securestring.txt | convertto-securestring
```

```
$mycred = new-object -typename System.Management.Automation.PSCredential -  
argumentlist <domain\user_name>, $pass
```

```
Connect-XO [-Host] <文字列> $mycred [[-Protocol][<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]
```

結果は標準の接続を使用した場合と同じです。

接続中...

<IP Address> 接続しました。

詳細については、PowerShell ドキュメントを参照するか、インターネットを検索してください。

Disconnect - XO - 実行中のコントロールサービスからの接続解除

Arcserve RHA PowerShell の操作を終了したら、実行中のコントロールサービスとの接続を解除する必要があります。**Disconnect-XO** コマンドを使用すれば、PowerShell を実行中のコントロールサービスから接続解除できます。

注： PowerShell ウィンドウを閉じると、PowerShell がコントロールサービスから切断されます。

構文

Disconnect-XO

注： このコマンドにはパラメータがありません。実行中のコントロールサービスから自動的に接続解除されます。

例： コントロールサービスからの接続解除

```
disconnect-xo
```

結果：

192.168.1.151 が接続解除されました

Get-License - Arcserve RHA ライセンスの表示

Get-License コマンドを使用して、Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示できます。

構文

get-license

例: Arcserve RHA ライセンスの詳細を表示

get-license

結果:

キー:

TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2MOZFU5GL7EJ3OYZQN-D7V3G123456

会社名:

ライセンスの有効期限: 11 2009

メンテナンスの有効期限: 11 2009

アシュアード リカバリノードの数: 240

CDP リポトリノードの数: 240

製品リスト:

- アプリケーション サーバ、Windows Cluster Edition、30 インスタンス HA
- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス HA
- アプリケーション サーバ、Windows Enterprise Edition、130 インスタンス DR
- ファイル サーバ、Windows Enterprise Edition、30 インスタンス DR
- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス DR
- アプリケーション サーバ、仮想マシン、100 インスタンス HA

Set-License - Arcserve RHA の登録

Set-License コマンドで、ライセンスキーを使用して、Arcserve RHA を登録できます。このコマンドを使用する前に、有効な登録キーを持つ必要があります。

構文

```
set-license
```

パラメータ

キー

有効なライセンス キー

例: ライセンス キーを使用した Arcserve RHA の登録

```
set-license
```

```
TVC2LF24FTU7G3WJ2QAFMCLGXA5KLPCCYIXTJTWX2MOZFU5GL7EJ3OYZQN-  
D7V3G123456
```

結果:

キーは正常に登録されました

xo-import-credential

このコマンドは、指定された XML ファイル内のすべての認証情報レコードを読み取り、Add-Credential コマンドを使用して、接続されたコントロールサービスに追加します。

構文

xo-import-credential

パラメータ

XML ファイル名を指定します。

入力

なし.xo-import-credential にリンクされるオブジェクトはありません。

xo-convertto-securefile

このコマンドは、CSV ファイルのプレーンテキストを安全な XML ファイルに変換します。

構文

xo-convertto-securefile

パラメータ

ソース ファイル名 およびデスティネーションが指定されます。

ソースは以下の形式の CSV ファイルである必要があります。

hostname,	username,	password
host1,	user1,	pwd1
host2,	user2,	pwd2

入力

なし。リンクされるオブジェクトはありません。

xo-credential - 文字列の PSCredential オブジェクトへの変換

xo-credential コマンドを使用すると、ユーザ名 およびパスワードの文字列を安全な認証オブジェクトに変換でき、PSCredential オブジェクトをコマンド引数に取る他のコマンド内で使用することができます。

構文

xo-credential <ユーザ名> <パスワード>

例

xo-credential johnsmith mypassword2

Add-Credential - 認証情報をホストに追加します

この Add-Credential コマンドによって、認証情報をホストに追加できます。

構文

```
Add-Credential [-Credentials] <PSCredential> [-Host] <String> [[-Port] <UInt32>]]
```

パラメータ

認証情報

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

Host

認証情報の適用先のホストのホスト名または IP アドレス。

ポート

ホストのポート番号。

デフォルト: 25000.

例:

```
$c = xo-credential "administrator" "Password";
```

```
Add-Credential $c "9.182.102.229" 25000
```


Set-HostUserCredential - ホストのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-HostUserCredential コマンドを使用して、ホストのユーザ認証情報プロパティを設定できます。

構文

```
Set-HostUserCredential [-Name] <String> [-Host] <String> [-Credentials]
<PSCredential>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

認証情報を設定するホストのホスト名または IP アドレス。

認証情報

特定のホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを設定できます。

例:

```
$c = xo-credential "administrator" "Password";
Set-HostUserCredential -name "scenario 1" -host 9.182.102.229 -credential $c
```

出力:

プロパティは正常に更新されました。

Set-ScenarioUserCredential - シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定します

Set-ScenarioUserCredential コマンドを使用して、シナリオのユーザ認証情報プロパティを設定できます。

構文

```
Set-ScenarioUserCredential [-Name] <String> [-Credentials] <PSCredential>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

認証情報

ホストの PowerShell 認証情報オブジェクト。xo-credential cmdlet を使用して、この認証情報オブジェクトを作成できます。

例:

```
$c = xo-credential "administrator" "Password";
```

```
Set-ScenarioUserCredential -name "scenario 1" -credential $c
```

出力:

プロパティは正常に更新されました

制御コマンド

このセクションでは、レプリケーションおよび HA プロセスを制御できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Diff-Scenario - 相違点レポートの生成](#)
- [Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート](#)
- [Expose-Snapshot - スナップショットの公開](#)
- [Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート](#)
- [Mount-Snapshot - スナップショットのマウント](#)
- [Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備](#)
- [Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復](#)
- [Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開](#)
- [Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開](#)
- [Run-Scenario - シナリオの開始](#)
- [Run-Assessment - アセスメントモードでのシナリオの実行](#)
- [Set-Bookmark - リワインドブックマークの設定](#)
- [Stop-Scenario - シナリオの停止](#)
- [Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止](#)
- [Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止](#)
- [Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行](#)
- [Sync-Scenario - 同期の開始](#)
- [Test-Integrity - アシュアードリカバリの整合性テストの実行](#)
- [Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除](#)

Diff-Scenario - 相違点レポートの生成

Diff-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの相違点レポートを生成できます。

重要: マスタでデータの更新中に相違点レポートを開始することはお勧めしません。レプリカに適用されていないすべての更新は相違点として表示されるからです。

構文

Diff-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

レポートを生成するシナリオの名前。[Get-Scenario](#) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

注: 相違点レポートを生成後に表示するには、概要ページから [レポート センター]を開いて、必要なレポートを選択します。

例: 相違点レポートの生成

```
diff-scenario "File Server 1" F 1
```

結果:

以下のシナリオの相違点レポートを実行中です: File Server 1 ...
完了しました。

Export-Scenario - 指定した場所へのシナリオのエクスポート

Export-Scenario コマンドを使用して、シナリオを他の場所にエクスポートして再利用できます。シナリオは XMC ファイルとしてエクスポートされ、エクスポート先の場所を指定できます。

構文

Export-Scenario [-Name] <文字列> [[-File] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

File (オプション)

エクスポートしたファイルの完全パス。パスを指定しない場合、ファイルは現在のディレクトリにエクスポートされ、シナリオ名に .xmc という拡張子が付きます。

例：指定した場所へのシナリオのエクスポート

```
export-scenario "File Server 1" C:\Scenarios\Scenario_exp_file_1
```

結果：

シナリオ File Server 1 が、C:\Scenarios\Scenario_exp_file_1 に正常にエクスポートされました

Expose-Snapshot - スナップショットの公開

Expose-Snapshot コマンドを使用して、スナップショットを公開できます。スナップショットを未使用のフォルダにマウントして、ローカルの読み取り専用フォルダとして公開したり、未使用のドライブ文字にマウントして、ローカルの読み取り専用ボリュームとして公開したりすることができます。

Notes:

- 公開されたスナップショットは、その後起動されても公開されたまま残ります。公開されたスナップショットのマウント解除を行えば、それ自体を削除することなく、リリースすることができます。
- 公開アクションとマウントアクションは、スナップショットを特定のパスにマウントするという同じ結果を生成します。この2つのアクションの違いは、スナップショットを最初にマウントするときには直接マウントアクションを使用できないため、公開アクションを使用する必要があることです。公開アクションでは、スナップショットを公開してマウントします。その後、マウント解除アクションとマウントアクションを使用できます。

構文

Expose-Snapshot [-Name] <文字列> [-Index] <Int32> [-Path] <文字列> [-Port] <文字列>

パラメータ

名前

スナップショットを公開するホストの名前です。

Index

[Get-Snapshot コマンド](#)によって返されるスナップショットのインデックス番号。

パス

スナップショットの公開先のパス。このパスは、ドライブ文字またはフォルダの完全パスのいずれかで指定できます。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。デフォルトポートは25000です。

例: スナップショットをローカルの読み取り専用ボリュームとして公開

Expose-Snapshot 192.168.1.153 0 E: 25000

結果:

スナップショット {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} が E: としてマウントされました

Import-Scenario - マネージャへのシナリオのインポート

Import-Scenario コマンドを使用して、シナリオを XMC ファイルの形式で、指定した場所からインポートできます。シナリオをあるコントロールサービスから別のコントロールサービスへ移動する場合、またはシステムが保持しているシナリオよりも古いシナリオを使用する場合に、このオプションを使用します。

構文

Import-Scenario [-File] <文字列>

パラメータ

File

インポートしたシナリオファイルの完全パス。

Notes:

- 同名のシナリオがすでに存在している場合、インポートされたシナリオの名前が変更されます。
- インポートされたシナリオはすべてデフォルトの **Scenarios** グループに保存されます。

例: 指定した場所からマネージャへのシナリオのインポート

```
import-scenario c:\scenarios
```

結果:

シナリオ File Server 2 は、c:\scenarios から正常にインポートされました

Mount-Snapshot - スナップショットのマウント

Mount-Snapshot コマンドを使用して、公開したスナップショットをマウントできます。スナップショットをローカルの読み取り専用フォルダとして、未使用のフォルダにマウントしたり、ローカルの読み取り専用ボリュームとして未使用のドライブ文字にマウントしたりすることができます。

構文

Mount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Path] [<文字列>]] [[-Port] [<文字列>]]

パラメータ

名前

スナップショットをマウントするホストの名前です。

Index

[Get-Snapshot コマンド](#)によって返されるスナップショットのインデックス番号。

パス

スナップショットの公開先のパス。このパスは、ドライブ文字またはフォルダの完全パスのいずれかで指定できます。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。デフォルトポートは 25000 です。

例：スナップショットをローカルの読み取り専用ボリュームとしてマウント

```
mount-snapshot 192.168.1.153 0 F:
```

結果：

スナップショット {745d6ce9-d880-40bf-a0cb-d4f0114bb0f8} は F: としてマウントされています。

Prepare-Reboot - ホストのメンテナンスの準備

Prepare-Reboot コマンドを使用すると、ホストの再起動や Microsoft クラスタ ノード間のグループの移動などのメンテナンス手順を実行することができ、プロセス完了後の再同期を実行する必要はありません。

メンテナンス用に準備されるホストは実行中のシナリオに含まれている必要があります。1 回に 1 つのホストで準備が行われますが、このホストを複数のシナリオに加えることができます。これらのシナリオでは、このホストはマスタとレプリカの両方として機能することができます。実行中でないシナリオにホストが含まれている場合、このシナリオに関連した準備は実行されません。

ホストの再起動の準備が完了したことを通知するメッセージを受け取ると、ホストを再起動するか、またはクラスタ ノード間でグループを切り替えることができます。メンテナンス手順が完了すると、レプリケーション プロセスは再同期を実行することなく自動的に再開します。

注：ホストをメンテナンス用に準備した後、再起動せずにシナリオの実行を継続することにした場合、シナリオを停止して再実行する必要があります。

構文

Prepare-Reboot [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

ホスト名。

例：再起動のためにレプリカ ホストを準備

Prepare-Reboot QA95-W2K3-EX2

結果：

ホスト QA95-W2K3-EX2 を再起動するための準備をしています

Recover-Scenario - 損失データのレプリカからマスタへの回復

Recover-Scenario コマンドを使用して、マスタで失われたデータをシナリオに参加するレプリカ ホストから転送することによって、そのデータを回復することができます。これは、レプリカからマスタへという逆方向の同期プロセスを起動することによって実行されます。**Recover-Scenario** コマンドを起動するときに、データを回復する元になるレプリカ ホストを定義し、リカバリプロセス中にマスタ上に存在するがレプリカ上には存在しないデータを削除するかどうかを定義する必要があります。

重要: リカバリを開始するには、レプリケーションを停止する必要があります。

リカバリプロセスが完了したことを確認するには、[Get-Events](#) コマンドを使用します。「リカバリプロセスが終了した」ことを通知するメッセージを受け取ったら、[Run-Scenario](#) コマンドを使用して、マスタからレプリカへのレプリケーション プロセスを再起動できます。

構文

```
Recover-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値> [-RemoveMasterFiles] <ブール値> [-RecoveryMode] <文字列> [-RebootAfterRecovery] <ブール値>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

データのリカバリ元となるレプリカ ホスト。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

RemoveMasterFiles

リカバリプロセス中にマスタにのみ存在するファイルを削除するかどうかを決定します。以下のいずれかを入力します。

1 = はい、マスタのみに存在するファイルを削除します。

0 = いいえ、マスタのみに存在するファイルを保持します。

RecoveryMode

リカバリするデータの種類。以下のいずれかを入力します。

A = アプリケーション データ

S = システム状態 データ([システム状態の保護] オプションが有効の場合のみ)

B = 両方の種類のデータ

デフォルト値は A です。

RebootAfterRecovery

リカバリプロセスの完了後にマスタホストを再起動するかどうか。以下のいずれかを入力します。

1 = はい、マスタを再起動します。

2 = いいえ、マスタを再起動しません。

例: 損失データの回復

Recover-Scenario "File Server 1" 192.168.1.153 F 1 0 A 2

結果:

アプリケーションデータの回復プロセスが開始されました

Resume-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中の HA シナリオの IsAlive チェックを手動で再開できます。

構文

Resume-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

ターゲット シナリオ名。

例: SQLscenario の IsAlive チェックの再開

Resume-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを再開します。

Resume-Scenario - 一時停止したレプリカのレプリケーションの再開

Resume-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカ ホスト上のレプリケーション プロセスを再開できます。レプリケーションが再開されると、累積された変更が転送されて、レプリカに適用されるため、データの完全な再同期は不要です。

構文

Resume-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

再開する一時停止したレプリカの名前。

例：一時停止したレプリカ上でのレプリケーション プロセスの再開

```
resume-scenario "File Server 1" 192.168.1.153
```

結果：

シナリオ File Server 1 を以下で再開しています: 192.168.1.153

Run-Scenario - シナリオの開始

Run-Scenario コマンドを使用して、1 つまたは複数のシナリオを開始できます。

構文

Run-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

シナリオ名 [Get-Scenario](#) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=ブロック

F=ファイル

V=ボリューム

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0= いいえ

Notes:

- 操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、[Get-Scenario](#) コマンドおよび [Get-Events](#) コマンドを使用します。
- 複数のシナリオを一度に実行する場合は、[Get-Scenario](#) コマンドを使用します。

Get-Scenario |Run-Scenario

例: シナリオの開始

```
run-scenario "File Server 1" F 1
```

結果:

シナリオ File Server 1 を開始しています...

Run-Assessment - アセスメント モードでのシナリオの実行

Run-Assessment コマンドを使用して、実際にデータをレプリケートしなくても、レプリケーションに必要な正確な帯域幅使用率と圧縮率ベンチマークを評価できます。このコマンドを実行すると、レプリケーションは行われませんが、統計情報が収集されます。レポートは、アセスメント プロセスが停止すると生成されます。

重要: 評価期間が過ぎたら、必ず [Stop-Scenario コマンド](#) を使用して、アセスメント モードで実行されているシナリオを停止してください。

注: アセスメント レポートを生成後に表示するには、概要ページから [レポート センター]を開いて、必要なレポートを選択します。

構文

Run-Assessment [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: アセスメント モードでのシナリオの実行

```
run-assessment "File Server 1"
```

結果:

シナリオ File Server 1 が正常に実行されました

Set-Bookmark - リwind ブックマークの設定

ブックマークは、リwind バックする時点をマークするために手動で設定するチェックポイントです。Set-Bookmark コマンドを使用して、特定のシナリオにブックマークを設定できます。ブックマークは、過去のイベントに対してではなく、リアルタイムに設定されます。データの不安定要因になる可能性があるアクティビティが発生する直前にブックマークを設定することをお勧めします。

Notes:

- このオプションは、[レプリカ プロパティ] 一覧で [カバリ] - [データのリwind] オプションを [オン] に設定した場合のみ使用できます。
- 同期処理中はブックマークを設定できません。

構文

Set-Bookmark [-Name] <文字列> [[-Message] <文字列>]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Message (オプション)

ブックマークの名前。デフォルト名には、ブックマーク設定の日付と時刻が含まれます。

注: ブックマークには、後で認識しやすいようにわかりやすい名前をつけることをお勧めします。

例: リwind ブックマークの設定

```
set-bookmark "File Server 1" Backup1
```

結果:

シナリオ File Server 1: リwind ブックマークが正常に設定されました

Stop-Scenario - シナリオの停止

Stop-Scenario コマンドを使用して、1 つ以上のシナリオを停止できます。

注：操作が正常に完了したかどうかをチェックするには、[Get-Scenario](#) コマンドおよび [Get-Events](#) コマンドを使用します。

構文

Stop-Scenario [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

停止するシナリオの名前。[Get-Scenario](#) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

例：シナリオの停止

```
stop-scenario "File Server 1"
```

結果：

シナリオ File Server 1 が停止しました

Suspend-IsAliveCheck - 実行中のシナリオの IsAlive チェックの一時停止

Suspend-IsAliveCheck コマンドにより、指定された実行中の HA シナリオの IsAlive チェックを手動で一時停止できます。

構文

Suspend-IsAliveCheck [-ScenarioName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例: SQLscenario の IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-IsAliveCheck SQLscenario

結果:

SQLscenario の定期的な IsAlive チェックを一時停止します。

Suspend-Scenario - レプリカの更新の一時停止

Suspend-Scenario コマンドを使用して、一時停止したレプリカへの変更の配信を一時的に停止します。一時停止中、レプリケーションが再開されるまでの間に発生した変更はスプールに蓄積されるので、再同期は必要ありません。

重要: 一時停止中は、Exchange Server、SQL Server、Oracle などのアプリケーションの開始も含め、いかなる形であれデータを変更する作業をレプリカ上で行わないでください。レプリカ上でデータを変更するプログラムを開始する必要がある場合、[アシュアード リカバリオプション](#)を使用することができます。

Notes:

- 同期中にレプリケーションを一時停止することはできません。変更はマスタまたは上位のレプリカのスプールディレクトリに蓄積されるため、レプリケーションは一時的にのみ停止できます。レプリカが一時停止されている間に発生する変更を保持するスプールに十分な容量があることを確認してください。
- 一時停止を解除するには、[Resume-Scenario](#) コマンドを使用します。

構文

Suspend-Scenario [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

一時停止するレプリカ ホスト。

例: レプリカ上の更新の一時停止

```
suspend-scenario "File Server 1" 192.168.1.153
```

結果:

シナリオ File Server 1 は以下で一時停止されました: 192.168.1.153

Switchover-Scenario - スイッチオーバーの実行

Switchover-Scenario コマンドを使用して、所定の HA シナリオのスイッチオーバープロセスを開始できます。マスタとレプリカ間でロールをスイッチバックするには、Switchover-Scenario コマンドをもう一度実行します。

構文

```
Switchover-Scenario [-Name] <文字列> -WaitJournal [<ブール値>] -run_reverse_scenario <文字列>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

WaitJournal

ジャーナルの待機。

0: ジャーナルを待機しない。0 を選択する場合、リバースシナリオを実行できません。

1: ジャーナルを待機する。

Run_reverse_scenario

リバースシナリオを自動的に実行するかどうかを指定します。

値が 1 または True の場合、リバースシナリオを自動的に実行します。

値が 0 または False の場合、リバースシナリオを自動的に実行しません。

例: スイッチオーバーの実行

```
Switchover-Scenario "SQL Server 1" 1
```

結果

シナリオ SQL Server 1 は <Hostname> にスイッチオーバーします。

完了しました。

Sync-Scenario - 同期の開始

Sync-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオのマスタおよびレプリカを同期することができます。同期プロセスは、レプリケーションが実行中かどうかにかかわらず、いつでも手動でアクティブにできます。

構文

Sync-Scenario [-Name] <文字列> [-Mode] <文字列> [-Ignore] <ブール値>

パラメータ

名前

シナリオ名 [.Get-Scenario](#) コマンドを使用して、複数のシナリオ名を入力できます。

Mode

同期モード。以下のいずれかを入力します。

B=バイナリ

F=ファイル

V=ボリューム

Ignore

データの比較時に名前とサイズが同じファイルを無視します。以下のいずれかを入力します。

1=はい

0=いいえ

例：同期の開始

```
sync-scenario "File Server 1" F 1
```

結果：

以下のシナリオの同期を実行中です: FS 1...

完了しました。

Test-Integrity - アシユアード リカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity コマンドを使用して、アシユアード リカバリのレプリカ ホストで自動整合性テストを起動できます。

Notes:

- Test Integrity コマンドを有効化するには、**「アシユアード リカバリを使用した整合性テスト」**オプションを **「オン」**にしてシナリオを使用する必要があります。
- アシユアード リカバリオプションは、レプリケーション(Replication) とハイ アベイラビリティ(HA) の両方のソリューションをサポートします。しかし、最も適しているのはHAです。HA の場合は、データのみならず、テストが実行される実際のデータベース サーバがレプリカ サーバに導入されているためです。AR テストをレプリケーション シナリオの一部として使用する場合は、ルート ディレクトリパスがマスタとレプリカで同じであることを確認する必要があります。さらに、レプリカにデータベース アプリケーションがインストールされていること、また、ファイル サーバをテストする場合にはレプリカでファイルが共有されていることが必要で、それらはマスタおよびレプリカで同一 の設定となっていなければなりません。そうでなければ、AR テストの結果は意味がないものになってしまいます。
- テストを開始する前に、シナリオを実行する必要があります。

構文

Test-Integrity [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Mode] <文字列> -WaitJournal [<ブール値>]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

テストするレプリカ ホストの IP アドレスまたはホスト名。

Mode

Test-Integrity を手動または自動モードで実行するかどうかを指定します。手動モードを選択する場合は、「m」、「M」、「manual」、または「Manual」と入力します。デフォルトは自動モードです。

WaitJournal

P2V シナリオ用のジャーナルがすべて適用されると、テストを開始します。

0: ジャーナルを待機しない

1: ジャーナルを待機する

例: アシュアード リカバリの整合性テストの実行

Test-Integrity "Exchange Server 1" 192.168.1.153

結果

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの開始: 192.168.1.153

完了しました。

アシュアード リカバリを使用した整合性テストの完了: 192.168.1.153

Unmount-Snapshot - スナップショットのマウント解除

Unmount-Snapshot コマンドを使用して、スナップショット自体を削除することなく、公開されたスナップショットをリリースすることができます。スナップショットは引き続き公開されていますが、マウントポイントは使用しません。

構文

```
Unmount-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Index] [<Int32>]] [[-Port] [<文字列>]]
```

パラメータ

名前

スナップショットを公開するホストの名前です。

Index

[Get-Snapshot コマンド](#)によって返されるスナップショットのインデックス番号。

Port (オプション)

特定のホストへの接続に使用されるポート。デフォルトポートは 25000 です。

例: スナップショットのマウント解除

```
Unmount-Snapshot {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} 1
```

結果

スナップショット {97127d0b-f1c9-4db5-943d-96c39b712fe6} のマウントが解除されました

編集コマンド

このセクションでは、シナリオとシナリオグループを編集できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Add-Appliance - フルシステム シナリオ用のアプライアンスの指定](#)
- [Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加](#)
- [Add-Group - シナリオグループの作成](#)
- [Add-Master - シナリオへのマスタホストの追加](#)
- [Add-Replica - シナリオへのレプリカホストの追加](#)
- [Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカホストの追加](#)
- [Add-Scenario - 新規シナリオの作成](#)
- [Create-D2DScenario - D2D シナリオの作成](#)
- [Create-HBBUScenario - Arcserve Central Applications 統合シナリオの作成](#)
- [Get-D2DBackupDestination - D2D バックアップ先の取得](#)
- [Get-HBBUVM - Arcserve Central Applications サーバからの VM の取得](#)
- [Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除](#)
- [Remove-Group - シナリオグループの削除](#)
- [Remove-Replica - シナリオからのレプリカホストの削除](#)
- [Remove-Scenario - シナリオの削除](#)
- [Rename-Group - シナリオグループの名前の変更](#)
- [Rename-Scenario - シナリオ名の変更](#)
- [実行中にシナリオを変更するコマンド](#)

Add-Appliance - フルシステム シナリオ用のアプライアンスの指定

Add-Appliance コマンドを使用して、フルシステム シナリオ用のアプライアンスを追加できます。

構文

```
Add-Appliance [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Parent] <文字列> [-Type] <文字列> [[-Platform] <文字列>] [[-Credentials] <PSCredentials>] [[-ResourcePool] <文字列>] [[-Storage] <文字列>] [[-Port] <文字列>] [[-SSL] <ブール値>] [[-Dynamic] <ブール値>]
```

パラメータ

名前

新規シナリオの名前。

Host

レプリカ ホストの名前。

Parent

親ホスト。1:m:n をサポートします。

種類

プラットフォームタイプ。

- ◆ E または e - ESX
- ◆ H または h - Hyper-V
- ◆ X または x - Xen
- ◆ V または v - VCenter
- ◆ Others - 警告メッセージ

Platform

仮想プラットフォームの IP。Hyper-V の場合は適用できません。

Credentials (オプション)

仮想プラットフォームの認証情報。

ResourcePool

リソースプール名。このフィールドを選択しない場合は、デフォルトが選択されます。

Storage

ストレージ名。このフィールドを設定しない場合は、デフォルトが選択されます。

ポート

仮想プラットフォームのポート番号。このフィールドを設定しない場合は、デフォルトが選択されます。

SSL

SSL 接続のスイッチ。デフォルト値は true です。

Dynamic

「with provision」プロパティのスイッチ。デフォルト値は true です。

例: フルシステムシナリオ用のアプライアンスの追加

```
Add-Appliance -Name FULL -Parent 9.181.130.110 -Host 9.181.130.64 -Type H
```

結果

レプリカ 9.181.130.64 が正常に追加されました

Add-Dir - マスタおよびレプリカのホストへのルート ディレクトリの追加

Add-dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカのホストにルート ディレクトリを追加できます。マスタとレプリカに同じルート ディレクトリパスを定義するか、異なる2つのパスを入力することができます。レプリカに別のパスを入力しない場合、デフォルトではマスタのパスと同じになります。

構文

Add-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列> [[-ReplicaPath] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

MasterPath

マスタのルート ディレクトリの完全パス。

フルシステムシナリオでは、ドライブ文字とマウント ポイントの両方を入力します。ドライブ文字を入力する場合、":", "/", および "\" は無視できます。

たとえば、"e"、"e:"、"e:\"、"e:/"、"e:\\\\\\\\\"、"e:////\" は同一です。

注：以下の点に注意してください。

- ◆ マウント ポイントを入力する場合、区切り記号として "\" または "/" を使用します。
- ◆ シナリオにルート ディレクトリがない場合、ブート ボリュームおよびシステム ボリュームなどのデフォルト ボリュームも追加されます。
- ◆ all を入力すると、すべてのボリュームが追加されます。

ReplicaPath (オプション)

レプリカ上のルート ディレクトリの完全パス。値を入力しない場合、マスタとレプリカに同じパスが使用されます。

注：フルシステムシナリオでは、このパラメータは無視されます。

例：マスタとレプリカへの同じルート ディレクトリの追加

```
add-dir "File Server 1" C:/Tools
```

結果

ルート ディレクトリ: C:/Tools が正常に追加されました

Add-Group - シナリオ グループの作成

Add-Group コマンドを使用して、新規シナリオ グループを作成できます。

注：シナリオが割り当てられていない場合、空のシナリオ グループは概要 ページには表示されません。

構文

Add-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

新規シナリオ グループの名前。

注：複数のシナリオ グループに同じ名前を使用できないため、一意の名前を入力します。新規グループに既存の名前を使用すると、システムによってその名前が自動的に変更されます。

例：新規シナリオ グループの作成

```
add-group "File Server Scenarios"
```

結果

グループ「File Server Scenarios」が正常に追加されました

Add-Master - シナリオへのマスタ ホスト の追加

Add-Master コマンドを使用して、所定のシナリオにマスタ ホストを追加できます。マスタ ホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要があります。さらに、マスタ IP アドレスを入力できますが、このパラメータは必須ではありません。

Notes:

- IP アドレスをホスト名として入力できます。
- このコマンドは、既存のマスタを変更する場合も使用できます。

構文

Add-Master [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]]

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

新規マスタのホスト名。

IP (オプション)

新規マスタの IP アドレス。IP アドレスが定義されていない場合、システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用して IP アドレスを検索し、最初に検出された IP アドレスを使用します。このため、ホストに複数の IP アドレスがある場合、ここで使用する IP アドレスを入力することをお勧めします。

例: シナリオへのマスタ ホストの追加

```
add-master "File Server 1" 130.119.185.152
```

結果

マスタ「130.119.185.152」が正常に追加されました

Add-Replica - シナリオへのレプリカホストの追加

Add-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオにレプリカホストを追加できます。レプリカホストを定義する際に、そのホスト名を入力する必要があります。また、オプションで IP アドレスも入力できます。次に、親ホスト名を入力する必要があります。これは、マスタまたは別のレプリカのいずれかです。

注： IP アドレスをホスト名として入力できます。

ACL のセキュリティの委任を使用しているときは、UserName、Password、DomainName の 3 つの追加のパラメータの値を入力する必要があります。

構文

```
Add-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [[-IP] [<文字列>]] [-Parent] <文字列>  
> [[-UserName] <文字列>] [[-Password] <文字列>] [[-DomainName] <文字列>]
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

新規レプリカのホスト名。

IP (オプション)

新規レプリカの IP アドレス。IP アドレスが定義されていない場合、システムはデフォルトでは指定されたホスト名を使用して IP アドレスを検索し、最初に検出された IP アドレスを使用します。このため、ホストに複数の IP アドレスがある場合、ここで使用する IP アドレスを入力することをお勧めします。

Parent

新規レプリカホストの親ホスト。親はマスタまたは上位のレプリカのいずれかになり、そのホスト名または IP アドレスのいずれかを使用できます。

UserName、Password、DomainName(ACL の場合のみ)

新規レプリカホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パスワード、およびドメイン。

例：シナリオへのレプリカホストの追加

```
add-replica "File Server 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152
```

結果

レプリカ「130.119.185.153」が正常に追加されました

Add-Replicas - シナリオへの複数のレプリカホストの追加

Add-Replicas コマンドを使用して、所定のシナリオに複数のレプリカホストを一度に追加できます。複数のレプリカホストを追加するには、それらのホストのホスト名とIPアドレスを含むテキストファイルを作成する必要があります。このコマンドを使用する際には、最初にシナリオ名、および追加するすべてのレプリカホストの親ホストを定義する必要があります。次に、新規ホストの詳細を含むファイルの名前とパスを指定します。

構文

Add-Replicas [ScenarioName] <文字列> [ParentHost] <文字列> [FileName] <文字列>

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

ParentHost

新規レプリカホストの親ホスト。親はマスタまたは上位のレプリカのいずれかになり、そのホスト名またはIPアドレスのいずれかを使用できます。

FileName

ホスト名とそのIPアドレスを含むテキストファイル。このテキストは、次の形式にする必要があります。

#ホスト名 IP アドレス

QA95-W2K3-SQL1 *130.119.185.155

QA95-W2K3-EX2 *130.119.185.153

UserName、Password、DomainName(ACL の場合のみ)

新規レプリカホストを追加する権限を持つユーザのユーザ名、パスワード、およびドメイン。

例: シナリオへの複数のレプリカホストの追加

```
add-replicas "Exchange Server" QA95-W2K3-EX1 D:\New_Replica_Hosts.txt
```

結果

130.119.185.151 QA95-W2K3-EX1

130.119.185.152 QA95-W2K3-EX2

2つのレプリカが追加されました。

Add-Scenario - 新規シナリオの作成

Add-Scenario コマンドを使用して、新規シナリオを作成できます。新規シナリオを作成する際に、以下の項目を定義する必要があります。

- シナリオ名
- このシナリオが割り当てられるシナリオグループ(オプション)
- 保護するアプリケーションまたはデータベース サーバのタイプ
- データ保護ソリューションのタイプ
- アシュアード リカバリの整合性テスト オプションを有効にするかどうか

新規シナリオは、ホストおよびルート ディレクトリなしで作成されます。これらのパラメータは、後で [Add-Master](#)、[Add-Replica](#) および [Add-Dir](#) コマンドを使用して定義します。

構文

```
Add-Scenario [-Name] <文字列> [[-Group] [<文字列>]] [[-Application] [<文字列>]] [[-Type] [<文字列>]] [[-AR] [<ブール値>]] [[-IntOpt] <文字列>] [[-ServerURL] <文字列>]
```

パラメータ

名前

新規シナリオの名前。

注: 複数のシナリオに同じ名前を使用できないため、一意の名前を入力します。新規シナリオに既存の名前を使用すると、システムによってその名前が自動的に変更されます。

Group (オプション)

新規シナリオを含むシナリオグループ名。

Notes:

- ◆ グループ名を入力しないと、新規シナリオはデフォルトの **Scenarios** グループに割り当てられます。
- ◆ ここで、新規グループ名を入力して、新規シナリオグループを作成できます。[Add-Group](#) コマンドを使用しても、新規シナリオグループを作成できます。

Application

データがレプリケートされるサーバのタイプは以下のとおりです。

- ◆ **EX** - Exchange
- ◆ **SQL** - SQL Server

- ◆ **ORA** - Oracle
- ◆ **IIS** - Internet Information Server
- ◆ **FS** - ファイル サーバ
- ◆ **P2V** - フルシステム

種類

ソリューションのタイプ:

- ◆ **DR** - レプリケーション/ディザスタ リカバリ
- ◆ **HA** - ハイ アベイラビリティ

AR

レプリカ サーバ上のデータのリカバリ機能に関するアシュアード リカバリテストを実行するかどうか:

- ◆ **0** - いいえ
- ◆ **1** - はい

IntOpt

他の Arcserve 製品との統合:

- ◆ **BAB** - Arcserve Backup との統合
- ◆ **D2D** - Arcserve D2D との統合
- ◆ **HBBU** - Arcserve Central Host-Based VM Backup との統合

例: 新規シナリオの作成

```
add-scenario "File Server 1" "File Server Scenarios" FS DR 0
```

結果

シナリオ File Server 1 が正常に追加されました

Create-D2DScenario - D2D シナリオの作成

この **Create-D2DScenario** コマンドを使用して、D2D シナリオを作成できます。

構文

```
create-D2DScenario [-ServerURL] <String> [-Credentials] <PSCredential> [-  
ReplicaHostName] <String> [-ScenarioName] <String>
```

パラメータ

ServerURL

D2D サーバの URL を定義します。

認証情報

D2D サーバにログオンするための認証情報を定義します。

ReplicaHostName

レプリカの名前または IP アドレスを定義します。

ScenarioName

シナリオ名を定義します。

例: D2D 統合シナリオの作成

```
Create-D2DScenario -ServerURL http://test01:8014 -Credentials testserv/testpass -  
ReplicaHostName test01 -ScenarioName testD2D
```

Create-HBBUScenario - Arcserve Central Applications 統合シナリオの作成

この **Create-HBBUScenario** コマンドによって、Arcserve Central Applications サーバに接続して、ポリシーおよび関連するバックアップ先をマスタとして取得し、すべてのバックアップ VM ファイルを自動検出するシナリオを作成できます。

構文

```
create-HBBUScenario [-ServerURL] <String> [-Credentials] <PSCredential> [-ScenarioName] <String> [-MasterHostName] <String> [-ReplicaHostName] <String> [[-FilterFileName] <String>] [[-InstanceUUID] <String>]
```

パラメータ

ServerUrl

Arcserve Central Host-Based VM Backup サーバの URL を定義します。

認証情報

Arcserve Central Applications サーバにログオンするための認証情報を定義します。

ScenarioName

シナリオ名を定義します。

MasterHostName

マスタサーバの名前または IP アドレスを定義します。

ReplicaHostName

レプリカの名前または IP アドレスを定義します。

FilterFileName

仮想マシンのフィルタファイル名を定義します

InstanceUUID

仮想マシンの UUID を定義します

例: Central Applications 統合シナリオの作成

```
Create-HBBUScenario -ServerURL http://test01:8015 -ScenarioName testHBBU -MasterHostName test02 -ReplicaHostName test_replica
```

Get-D2DBackupDestination - D2D バックアップ先の取得

この **Get-D2DBackupDestination** コマンドによって、D2D のバックアップ先の詳細を取得します。

構文

```
get-D2DBackupDestination [-ServerUrl] <String> [-Credentials] <PSCredential>
```

パラメータ

ServerURL

D2D サーバの URL を定義します。

認証情報

D2D サーバにログオンするための認証情報を定義します。

例: D2D のバックアップ先の取得

```
Get-D2DBackupDestination -ServerURL http://test01:8014 Credentials admin/testpass
```

Get-HBBUVM - Arcserve Central Applications サーバからの VM の取得

この Get-HBBUVM コマンドによって、Arcserve Central Applications サーバから、バックアップ ポリシーに割り当てられている仮想マシンを取得します。

構文

```
Get-HBBUVM [-ServerUrl] <String> [-Credentials] <PSCredential>
```

パラメータ

ServerUrl

Arcserve Central Host-Based VM Backup サーバの URL を定義します。

認証情報

Arcserve Central Applications サーバにログオンするための認証情報を定義します。

例: Central Applications サーバからの仮想マシンの取得

```
Get-HBBUVM http://test01:8015
```

Remove-Dir - マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

Remove-Dir コマンドを使用して、マスタおよびレプリカ ホストからルート ディレクトリを削除できます。

注： このコマンドを使用して、レプリカからのみルート ディレクトリを削除することはできません。マスタのルート ディレクトリを削除すると、対応するレプリカのルート ディレクトリも削除されます。

構文

Remove-Dir [-Name] <文字列> [-MasterPath] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

MasterPath

マスタ上のルート ディレクトリパス。

P2V シナリオでは、ドライブ文字とマウント ポイントの両方を入力します。ドライブ文字を入力する場合、":\"、"/\"、および "\" は無視できます。

たとえば、"e\"、"e:\"、"e:\\"、"e:/\"、"e:\\\\\\\\\"、"e:////\" は同一です。

注： 以下の点に注意してください。

- ◆ マウント ポイントを入力する場合、区切り記号として "\" または "/" を使用します。
- ◆ システム ボリュームにドライブ文字やマウント ポイントが存在せず、それらを追加または削除できない場合があります。このドライブ文字またはマウント ポイントは自動的に追加されます。そのようなボリュームは削除しないでください。

例：マスタおよびレプリカからのルート ディレクトリの削除

```
remove-dir "File Server 1" C:/Tools
```

結果：

ルート ディレクトリ: C:/Tools が削除されました

Remove-Group - シナリオ グループの削除

Remove-Group コマンドを使用して、所定のシナリオ グループを削除できます。

注：空のシナリオ グループのみ削除できます。シナリオを含むグループを削除する場合、最初にシナリオを削除する必要があります。

構文

Remove-Group [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

削除するシナリオ グループの名前。

例：シナリオ グループの削除

```
remove-group "new group 1"
```

結果

グループ new group 1 が削除されました

Remove-Replica - シナリオからのレプリカ ホストの削除

Remove-Replica コマンドを使用して、所定のシナリオからレプリカ ホストを削除できます。

構文

```
Remove-Replica [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-Parent] <文字列>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

削除するレプリカ ホストの名前。

Parent

レプリケーション ツリーから削除するレプリカ ホストの親。マスタまたは上位のレプリカのいずれかになります。

例: シナリオからのレプリカ ホストの削除

```
remove-replica "FS 1" 130.119.185.153 -parent 130.119.185.152
```

結果

レプリカ 130.119.185.153 が削除されました

Remove-Scenario - シナリオの削除

Remove-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオを削除できます。削除するシナリオがフルシステムシナリオの場合、このコマンドは関連する VM リソースも削除します。

注：実行中のシナリオは削除できません。

構文

Remove-Scenario [-Name] <文字列> [[-DeleteVM] [<ブール値>]]

パラメータ

名前

削除するシナリオの名前。

Delete_VM [<ブール値>]

P2V シナリオの VM リソースをすべて削除します。

1 - 削除する (デフォルト)

0 - 削除しない

例: シナリオの削除

```
remove-scenario "File Server 2"
```

結果

シナリオ File Server 2 が削除されました

Rename-Group - シナリオ グループの名 前の変更

Rename-Group コマンドを使用して、所定のシナリオ グループの名 前を変更 できます。

構文

Rename-Group [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

名 前

シナリオ グループの現在の名 前。

NewName

シナリオ グループの新しい名 前。

注：複数のシナリオ グループに同じ名 前を使用できないため、一意の名 前を入力します。シナリオ グループに既存の名 前を使用すると、システムがその名 前を自動的に変更します。

例：シナリオ グループの名 前の変更

```
rename-group Server "Exchange Server Scenarios"
```

結果

グループ サーバの名 前が変更されました

Rename-Scenario - シナリオ名の変更

Rename-Scenario コマンドを使用して、所定のシナリオの名前を変更できます。

注：実行中のシナリオの名前は変更できません。名前を変更するには、まずシナリオを停止します。

構文

Rename-Scenario [-Name] <文字列> [-NewName] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオの現在の名前。

New Name

シナリオの新しい名前。

例：

```
rename-scenario "File Server 1" "File Server"
```

結果

シナリオ File Server 1 の名前が変更されました

実行中にシナリオを変更するコマンド

シナリオの実行中に、一部のシナリオプロパティを変更できるようになりました。このセクションでは、実行中のシナリオを編集するためのコマンドの構文と例を示します。

- [Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Get-RuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties](#)
- [Set-RuntimeChangeableScenarioProperty](#)
- [Test-RuntimeChangeableScenarioProperty](#)

Apply- AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、実行中、変更されたすべてのシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

例

いくつかのシナリオのプロパティを変更したと仮定します。それらの変更はすべて保留中です。それらを即座に適用する場合に、このコマンドを使用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中のシナリオにすべての変更を適用できます。

構文

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 変更する実行中のシナリオの名前。

例

以下のコマンドは、FileServer という名のシナリオに変更を適用します。

Apply-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

結果として、プロパティとその値のリストが出力されます。

error_source : engine_verification_error

error_level: Error

host_index: 2

root_dir_index: 0

property_xpath:

Scenario.ReplicationTree.ReplNode.ReplNode.SpecificReplicaProps.ReplicaScheduledTask.Suspend.SuspendScript.Path

Discard- AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、すべてのシナリオ用に設定したすべての変更をキャンセルできます。

構文

Discard-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中のシナリオに対する任意の変更をキャンセルできます。

構文

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 変更を破棄する実行中のシナリオ名です。

例

FileServer という名の実行中のシナリオに多数の変更を加えた結果、問題が検出された場合は、以下のコマンドを使用してシナリオのすべての値を元に戻します。

Discard-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

FileServer という名のシナリオに加えたすべての変更が、元の値にリセットされます。

特定のプロパティのみ元の値に設定する場合は、Set-
RuntimeChangeableScenarioProperties して、実行中シナリオの指定したプロパティのみ変更します。変更を破棄した場合 Get-
AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties リストのすべてのレコードは削除されることに注意してください。Apply-
PendingRuntimeChangeableScenarioProperties を実行すると、指定したシナリオが実行時に変更されなかったことを警告するメッセージが表示されます。

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドは、実行中に変更されたシナリオをすべてリスト表示します。

構文

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

パラメータ

なし

例

以下のコマンドは、実行中に変更されたすべてのシナリオをリスト表示します。

Get-AllPendingRuntimeChangeableScenarioProperties

結果

結果としてシナリオ名のリストが出力されます。

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、シナリオの実行中に変更可能なすべてのプロパティをリストできます。

構文

```
get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties
```

パラメータ

なし

例:

以下のコードは、編集可能なプロパティをすべてリスト表示し、出力をテキストファイルにリダイレクトするコマンドを発行します。

```
Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties > d:\1.txt
```

結果

編集可能なプロパティが、「シナリオ/マスタ/レプリカ/プロパティ名」という形式で表示されます。

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定したシナリオの実行中に編集できるプロパティをすべて検出できます。このコマンドでは、そのシナリオで変更できるプロパティのリストが返されます。I/O リダイレクション コマンドと組み合わせると、出力をテキスト ファイル用にフォーマットします。

構文

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下のコマンドでは、「FileServerScenario1」という名のシナリオで編集可能なすべてのプロパティが表示されます。

Get-RuntimeChangeableScenarioProperties FileServerScenario1

結果

Property: False

Host: 10.0.0.0

Value: False

Index: 111

Category: Replica

Name: SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties コマンドでは、指定した実行中シナリオに対するすべての変更をリスト表示できます。

構文

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties [Name]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

例:

以下の例では、FileServer という名のシナリオで変更されたすべてのプロパティがリストされます。

Get-PendingRuntimeChangeableScenarioProperties FileServer

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値がリスト表示されます。

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、名前を指定したシナリオの実行中に、指定したプロパティの値を更新できます。

構文

Set-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Value] [Host]

パラメータ

Name - プロパティを変更する実行中のシナリオ名。

Index - 変更するプロパティのインデックスまたは名前。正しい名前を取得するには、Get-AllRuntimeChangeableScenarioProperties または Get-RuntimeChangeableScenarioProperties コマンドを使用します。インデックス値は内部的に生成されます。タイプが同じ 2 つのシナリオでも、同じプロパティのインデックスが異なる場合があります。正確なインデックスまたは名前を取得するようにしてください。

Value - 指定したプロパティの新しい設定。

ホスト - (オプション) マスタまたはレプリカのプロパティを変更する場合のみ、ホストを指定する必要があります。一般的なプロパティまたは HA プロパティについては、この値はオプションです。

例:

以下のコマンドは、一時停止スクリプト プロパティの引数を、名前に基づいて更新します。

```
Set-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer  
SpecificReplicaProps.Suspend.SuspendScript 456 -Host 10.0.0.1
```

結果

プロパティ、プロパティの元の値、プロパティの新しい値を表形式で表示します。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty コマンドでは、指定したプロパティがシナリオ実行中編集可能かどうかを確認できます。

構文

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty [Name] [Index] [Host]

パラメータ

Name - 実行中のシナリオ名

Index - テストするプロパティのインデックスまたは名前

Host - オプション

例

以下のコマンドでは、FileServer という名の実行中のシナリオについて、インデックスが 113 のプロパティをテストします。

Test-RuntimeChangeableScenarioProperty FileServer 113 -host 10.0.0.3

結果

指定したインデックスまたはプロパティ名について TRUE または FALSE の値。

モニタリングコマンド

このセクションでは、DR および HA プロセスをモニタできるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示](#)
- [Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示](#)
- [Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示](#)
- [Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示](#)
- [Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワークアダプタの取得](#)
- [Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示](#)
- [Get-Snapshot - レプリカホストの VSS スナップショットを表示](#)
- [Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示](#)
- [Get-Stats - シナリオの統計情報を表示](#)

Get-Dirs - シナリオのルート ディレクトリの一覧表示

Get-Dirs コマンドを使用して、すべてのルート ディレクトリの一覧を表示できます。

構文

Get-Dirs [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例：所定のシナリオのルート ディレクトリの一覧表示

```
get-dirs "File Server 1"
```

結果

ID : 2721474912

Scenario : File Server 1

Master : 192.168.1.152

Path : C:/Tools

DB : False

Get-Events - シナリオのイベントのリスト表示

Get-Events コマンドで所定のシナリオのレプリケーション イベントのリストが表示されます。このイベント リストには、情報、警告およびイベントが含まれる場合があります。表示される情報は、イベント ID、イベントの日付と時刻、シナリオ名、イベントの重大度およびイベント メッセージで構成されます。

構文

Get-Events [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

表示するイベントのシナリオ名。

例：自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオの一覧を表示

```
get-events "File Server 1" | FT -auto
```

結果

ID	Time	Scenario	Severity	Message
SM00165	10/28/2008 6:02:52 PM	File Server 1	Significant	Connected to...
SR00014	10/30/2008 7:17:31 PM	File Server 1	Significant	Starting...
SR00139	10/30/2008 7:17:35 PM	File Server 1	Significant	Starting File...
IR00119	10/30/2008 7:18:16 PM	File Server 1	Info	Root directory...
SR00120	10/30/2008 7:18:16 PM	File Server 1	Significant	Synchronization...
IM00405	10/30/2008 7:15:06 PM	File Server 1	Info	Posting...
SR00202	10/30/2008 7:18:21 PM	File Server 1	Significant	All modifications...
SR00096	11/3/2008 6:47:40 PM	File Server 1	Significant	Stopping scenario...

Get-Group - 所定の名前を持つグループの一覧表示

Get-Group コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオグループの一覧を表示できます。このリストを表示するには、検索する名前を入力する必要があります。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオグループの一覧を表示できます。すべてのシナリオグループの一覧を表示するには、シナリオ名なしでコマンドを入力します。

構文

```
Get-group [-GroupName] [<文字列>]
```

パラメータ

名前

シナリオグループの名前。

注：シナリオグループ名の一部として「*」または「?」のワイルドカードを使用できません。

例：所定の名前を持つすべてのシナリオグループの一覧表示

```
get-group *Server*
```

結果

```
File Server Scenarios 2
File Server Scenarios 1
Exchange Server Scenarios
File Server Scenarios
```

Get-Hosts - シナリオのすべてのホストの一覧表示

Get-Hosts コマンドを使用して、所定のシナリオのすべてのホストの一覧を表示できます。

構文

Get-Hosts [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のシナリオのホストの一覧を表示

Get-Hosts "File Server 1" | FT -auto

結果

Scenario	Name	Role	Parent	State	IP	Port
-----	----	----	-----	--	----	
File Server 1	192.168.1.152	Master	--	Running	192.168.1.152	25000
File Server 1	192.168.1.153	Replica 1	192.168.1.152	Running	192.168.1.153	25000

Get-NetworkAdapters - 指定されたホストのネットワークアダプタの取得

Get-NetworkAdapters コマンドを使用して、指定されたホストのすべてのネットワークアダプタをリスト表示できます。

構文

Get-NetworkAdapters [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

フルシステムシナリオ内のホスト名。

例: フルシステムシナリオの指定されたホストのすべてのネットワークアダプタをリスト表示

Get-NetworkAdapters FULL 9.181.130.64

結果: すべてのネットワークアダプタが表示されます。

Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection - Virtual Switch

Arcserve RHA internal for AR

Get-Scenario - 所定の名前を持つシナリオのリスト表示

Get-Scenario コマンドを使用して、所定の名前を持つすべてのシナリオのリストを表示できます。このリストを表示するには、検索する名前を入力します。

さらに、このコマンドを使用して、既存のすべてのシナリオのリストを表示できます。すべてのシナリオのリストを表示するには、シナリオ名なしでコマンドを入力します。

構文

```
Get-Scenario [[-Name] [<文字列>]]
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

注：シナリオ名の一部として「*」または「?」のワイルドカードを使用できます。

例：自動サイズ設定形式の表で指定の名前を持つすべてのシナリオの一覧を表示します。

```
get-scenario File* |FT -auto
```

結果

ID	Group	Name	Type	Master	State	Sync	AR
1123633852	Scenarios	FileServer	FileServer		Unknown	File	False
1123633468	Scenarios	File Server 1	FileServer	192.168.1.153	Stopped	File	False

Get-Snapshot - レプリカ ホスト の VSS スナップショット を 表示

Get-Snapshot コマンドを使用して、所定のレプリカホストのすべてのVSSスナップショットを表示できます。

構文

```
Get-Snapshot [-Name] <文字列> [[-Port] <文字列>]
```

パラメータ

名前

シナリオに表示されるホストの名前。

Port (オプション)

所定のホストへの接続ポート。デフォルトのポート番号は **25000** です。

例: 自動サイズ設定形式の表で所定のレプリカホストのすべてのVSSスナップショットを表示

```
Get-Snapshot 130.119.173.7 |FT -auto
```

結果

Index Snapshot Created Exposed Mounted Drive Scenario

```
-----  
0 {4f2bb053-5f2d} 11/18/2008 4:03:09 PM False Not Mounted C:/ FileServer  
1 {bcbdda2b-6165} 11/18/2008 4:06:00 PM False Not Mounted C:/ FileServer  
2 {c1f206be-2ad0} 11/18/2008 4:07:17 PM False Not Mounted C:/ FileServer
```

Get-State - 特定のホストに定義されたすべてのシナリオの一覧を表示

Get-State コマンドを使用して、特定のホストに定義されたすべてのシナリオを詳細および状態と共に一覧表示します。

構文

Get-State [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

ホストの名前。

例:

```
get-state 130.119.185.152
```

結果

```
ID : 2505374864
Group : FS Scenarios
Name : FS 1
Type : FileServer
Master : 130.119.185.152
State : Running
Sync : File
AR : False

ID : 2721467841
Group : File Server Scenarios
Name : File Server 1
Type : FileServer
Master : 130.119.185.152
State : Stopped
Sync : File
AR : False
```


Get-Stats - シナリオの統計情報を表示

Get-Stats コマンドを使用して、シナリオの実行中にホスト別の統計情報を表示できます。

構文

Get-Stats [-Name] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

例：所定のシナリオの実行中にレプリケーション統計情報を表示

```
get-stats "File Server 1"
```

結果

Scenario : File Server 1

名前 : 192.168.1.152

役割 : マスタ

スプールサイズ : 0

同期ファイル : 345

同期 (MB) : 86

レプリケート (MB) : 0

Scenario : File Server 1

名前 : 192.168.1.153

役割 : レプリカ

スプールサイズ : 0

同期ファイル : 345

同期 (MB) : 86

レプリケート (MB) : 0

ユーザ管理コマンド

このセクションでは、ユーザグループおよび ACL ベースのコントロール サービスのユーザをモニタおよび管理できるようにする Arcserve RHA PowerShell コマンドについて説明します。

注：ACL コマンドを使用するには、特別なライセンスが必要です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

- [Clean-VMResource – 仮想プラットフォーム上の VM リソースの消去](#)
- [Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワークアダプタのマッピング](#)
- [Get-SuperUserGroup - スーパーユーザグループ名の表示](#)
- [Set-SuperUserGroup - スーパーユーザグループの変更](#)
- [Get-Users - スーパーユーザグループのすべてのユーザの一覧表示](#)
- [Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示](#)
- [Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て](#)
- [Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル](#)

Clean-VMResource – 仮想プラットフォーム上の VM リソースの消去

Clean-VMResource コマンドを使用して、仮想プラットフォーム上の仮想マシンリソースを消去できます。レプリカホストを入力すると、レプリカの VM リソースが消去されます。Host パラメータを入力しない場合、仮想プラットフォームのすべての VM リソースが消去されます。

構文

Clean-VMResource [-Name] <文字列> [-Host] <文字列>

パラメータ

名前

シナリオ名。

Host

シナリオ内のレプリカホスト。

例: すべてのリソースを消去

Clean-VMResource FULL 9.181.130.64

結果

VM リソースは正常に削除されました。

Edit-NetworkMapping – マスタおよびレプリカへのネットワークアダプタのマップ

Edit-NetworkMapping コマンドを使用して、フルシステムシナリオのマスタおよびレプリカの間でネットワークアダプタをマップできます。

構文

```
Edit-NetworkMapping [-Name] <文字列> [-Host] <文字列> [-SourceAdapter] <文字列>
> [-TargetAdapter] <文字列> [[IP] <文字列[]>] [[DNS] <文字列[]>] [[gateway] <文字列[]>]
[[PrimaryWins] <文字列>] [[SecondaryWins] <文字列>] [[-Type] <文字列>]
```

パラメータ

名前

シナリオ名。HA および P2V シナリオのみがサポートされています。

Host

ホスト名または IP アドレス。

SourceAdapter

ソースアダプタの名前。

TargetAdapter

ターゲットアダプタの名前。空の値を指定するには Null を使用します。

IP

IP アドレスの配列。区切り記号は「:」を使用します。たとえば、
"192.168.1.1:255.255.252.0"。255.255.252.0 はサブネットマスクです。

DNS

DNS アドレスの配列。

Gateway

ゲートウェイアドレスの配列。

PrimaryWins

プライマリ WINS (Windows インターネットネームサービス) アドレス。

SecondaryWins

セカンダリ WINS (Windows インターネットネームサービス) アドレス。

種類

AR または SW ネットワーク。デフォルトは SW ネットワークです。AR ネットワークを設定するには、「ar」を入力します。

例

```
Edit-NetworkMapping -Name FULL -Host 9.181.130.61 -SourceAdapter "Microsoft  
Network Adapter Multiplexor Driver" -TargetAdapter "Arcserve RHA internal for AR" -  
Type AR -IP 9.181.130.140:255.255.0.0
```

結果

ネットワークマッピングが正常に編集されました。

Get-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループ名の表示

Get-SuperUserGroup コマンドを使用して、接続されているコントロール サービスのスーパー ユーザ グループの名 前を表示 することができます。

構文

Get-SuperUserGroup

注： このコマンド にはパラメータがありません。

例： スーパー ユーザ グループの名 前の表示

Get-SuperUserGroup

結果

QA95-W2K3-SQL\\<スーパー グループ ユーザ名 >

Set-SuperUserGroup - スーパー ユーザ グループの変更

Set-SuperUserGroup コマンドを使用して、スーパー ユーザ グループを変更できます。

構文

Set-SuperUserGroup [-GroupName] <文字列>

パラメータ

GroupName

新規スーパー ユーザ グループの名前。

例: スーパー ユーザ グループの変更

Set-SuperUserGroup Administrators

結果

スーパー ユーザ グループが正常に設定されました

Get-Users - スーパー ユーザ グループのすべてのユーザの一覧表示

Get-Users コマンドを使用して、スーパー ユーザ グループに属しているすべてのユーザを一覧表示できます。

構文

```
get-users
```

注: このコマンドにはパラメータがありません。

例: スーパー ユーザ グループに属しているすべてのユーザの一覧表示

```
get-users
```

結果

```
QA95-W2K3\Administrator
```

```
QA95-W2K3-SQL\User2
```

```
QA95-W2K3-SQL\User1
```


Get-ScenarioUsers - シナリオに対する権限を持つすべてのユーザの一覧表示

Get-ScenarioUsers コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限を持つすべてのユーザを一覧表示できます。

構文

```
get-ScenarioUsers [-ScenarioName] <文字列>
```

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

例：所定のシナリオに対して権限を持つすべてのユーザの一覧表示

```
Get-ScenarioUsers "File Server"
```

結果

name

QA95-W2K3-SQL\User2

QA95-W2K3-SQL\User1

Set-ScenarioUser - シナリオに対する権限の、ユーザへの割り当て

Set-ScenarioUser コマンドを使用して、特定のシナリオに対する権限をユーザに割り当てることができます。

構文

```
Set-ScenarioUser [-Name] <文字列> [-User] <文字列> [-Right] <文字列>
```

パラメータ

名前

シナリオ名。

ユーザ

ユーザのフルネーム。

Right

シナリオに対してユーザが行使できる権限の種類。以下のいずれかを入力します。

A = 管理者

C = コントロール

V = 表示のみ

例：所定のシナリオに対するコントロール権限のユーザへの割り当て

```
Set-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL\User2 C
```

結果

権限がユーザに正常に設定されました

Remove-ScenarioUser - シナリオに対するユーザの権限のキャンセル

Remove-ScenarioUser コマンドを使用して、特定のシナリオに対するユーザの権限をキャンセルできます。

構文

```
Remove-ScenarioUser [-Name] <文字列> [-User] <文字列>
```

パラメータ

ScenarioName

シナリオ名。

UserName

ユーザの名前。

例：所定のシナリオに対するユーザの権限のキャンセル

```
Remove-ScenarioUser "File Server" QA95-W2K3-SQL\User2
```

結果

ユーザの権限が正常に削除されました。

Index

A

ACL コマンド

- Get-ScenarioUsers 105
- Get-SuperUserGroup 102
- Get-Users 104
- Remove-ScenarioUser 107
- Set-ScenarioUser 106
- Set-SuperUserGroup 103

Add-Dir 60

Add-Group 61

Add-Master 62

Add-Replica 63

Add-Replicas 64

Add-Scenario 65

C

Connect-XO 23

D

Diff-Scenario 36

Disconnect-XO 26

E

Export-Scenario 37

Expose-Snapshot 38

G

[Get-Dirs 89](#)
[Get-Events 90](#)
[Get-Group 91](#)
[Get-Hosts 92](#)
[Get-License 27](#)
[Get-Scenario 94](#)
[Get-ScenarioUsers 105](#)
[Get-Snapshot 95](#)
[Get-State 96](#)
[Get-Stats 97](#)
[Get-SuperUserGroup 102](#)
[Get-Users 104](#)

I

[Import-Scenario 39](#)

M

[Mount-Snapshot 40](#)

P

PowerShell

- [cmdlets 14](#)
- [インストール 16](#)
- [コマンドの使用 21](#)
- [コントロール サービスへの接続 23](#)
- [概念 13](#)
- [実行 17](#)
- [追加 60](#)

[PowerShell のインストール 16](#)

R

Recover-Scenario 42
Remove-Dir 71
Remove-Group 72
Remove-Replica 73
Remove-Scenario 74
Remove-ScenarioUser 107
Rename-Group 75
Rename-Scenario 76
Resume-Scenario 45
Run-Assessment 47

S

Set-Bookmark 48
Set-License 28
Set-ScenarioUser 106
Set-SuperUserGoup 103
Stop-Scenario 49
Suspend-Scenario 51
Switchover-Scenario 52
Sync-Scenario 53

T

Test-Integrity 54

U

Unmount-Snapshot 56

あ

アシュアード リカバリ テスト 54

い

イベント

リスト表示 90

イベント、一覧表示 90

お

オブジェクト パイプライン 15

く

グループ

名前の変更 75

グループ、シナリオ

一覧表示 91

削除 72

追加 61

名前の変更 75

こ

コマンド

cmdlets 14

モニタリング 88

使用して 21

出力、フォーマット 20

制御 35

編集 57

コマンド出力の形式 20

コントロール サービス

接続 23

接続解除 26

コントロール サービスへの接続 23

し

シナリオ

アセスメント モードでの実行 47

リスト表示 94

一時停止 51

回復 42

再開 45

追加 65

同期 53

名前の変更 76

シナリオ: インポート 39

シナリオ: エクスポート 37

シナリオ: 停止 49

す

スナップショット

マウント 40

マウント解除 56

一覧表示 95

公開 38

は

パイプライン、オブジェクト 15

ふ

ブックマークの設定 48

ほ

ホストのメンテナンス、準備 41
ホスト別統計情報、表示 97

ま

マウント解除 56
マスタ、追加 62

も

モニタリングコマンド 88

ゆ

ユーザ管理コマンド 98

ら

ライセンス
登録 28
表示 27
ライセンスの登録 28

り

リスト表示
シナリオ 94

る

ルート ディレクトリ

- すべて一覧表示 89
- 削除 71
- 追加 60

れ

レプリカ

- 削除 73
- 追加 63

レプリケーション統計情報、表示 97

感

一覧表示

- グループ 91
- スナップショット 95
- ホスト 92
- ルート ディレクトリ 89

働

再起動、ホストの準備 41

再起動の準備 41

任

作成

- シナリオ 65

作成：シナリオ グループ 61

風

削除

ScenarioUser 107

グループ 72

ルート ディレクトリ 71

レプリカ 73

削除: シナリオ 74

伟

使用

PowerShell コマンド 21

嫌

実行

PowerShell 17

アセスメント モードでのシナリオ 47

準

制御コマンド 35

晴

相違点レポート、生成 36

相違点レポートの生成 36

辞

追加

シナリオ 65

シナリオ グループ 61

ルート ディレクトリ 60

レプリカをシナリオに 62

追加:レプリカをシナリオに 63

厭

名 前 の 変 更

シナリオ 76